

早稲田大学スーパーグローバル大学創成支援事業最終成果発表シンポジウム開催報告

拠点名	健康スポーツ科学拠点
シンポジウム名称	Play Sports, Stay Healthy, and Enjoy Aging Society – Our Global Collaborations, Achievements And Beyond
開催概要	
開催日時	2023年10月8日(日) 10:00~18:00
会場	早稲田大学国際会議場
開催方式	対面および Zoom ウェビナー
使用言語	英語
登壇者	ステンシル デイビッド氏(ラフバラ大学教授)、ウーリッヒ セバスチャン氏(ドイツ体育大学ケルン教授)、リング クリストファー氏(バーミンガム大学教授)、コーンウェル ベッティーナ氏(オレゴン大学教授)、カニンガム ジョージ氏(フロリダ大学教授)、ファイロ ケビン氏(グリフィス大学准教授)、永山 千尋氏(株式会社ヘルスケアシステムズ臨床研究部 社員)、塩谷 彦人氏(早稲田大学スポーツ科学学術院講師)、李 猷氏(早稲田大学スポーツ科学研究科博士後期課程)
参加者概要	
参加者数	190名
参加国・地域	日本、中国、台湾、シンガポール、ドイツ、フランス、スイス
参加機関	日本体育大学、順天堂大学、法政大学、シンガポール国立大学、チューリッヒ大学、台北市立大学、高雄医学大学、ヨハネス・ゲーテンベルク大学マインツなど
本シンポジウムの目的	
SGU の 10 年間の取り組みを振り返りながら、学生の活躍状況を発信することで教育成果をアピールし、また、ポスト SGU に向けて今後のスポーツ科学学術院の国際化のビジョンを示すため、本シンポジウムを開催しました。	
開催内容詳細	
本拠点の 10 年間の SGU 事業を振り返る基調講演に加え、ラフバラ大学、ドイツ体育大学ケルン、バーミンガム大学、オレゴン大学、フロリダ大学、グリフィス大学よりお招きした 6 人のゲストスピーカーによる講演と、早稲田大学スポーツ科学学術院の卒業生 2 人、現役の大学院生 1 人の講演が行われました	
シンポジウムでは、早稲田大学の 弦間正彦理事 (国際担当) より開会の辞が述べられ、 松岡宏高スポーツ科学学術院長 よりご挨拶がありました。	
	

午前の部では、まず副学術院長（国際担当）であり、本拠点のリーダーである[正木宏明教授](#)より、本拠点の過去10年間のSGU事業の振り返りについての報告がありました。英語による修士・博士学位プログラムの設立や海外協定大学との連携、そして招聘教員による教育活動について振り返りました。



続いて、SGU事業で海外よりお招きし、講義をしていただいた経緯のある2人の教授からは、ゲストスピーカーとして早稲田大学における教育と共同プロジェクトについての報告をいただきました。

ステンシル デイビッド教授 ラフバラ大学 運動代謝学

『早稲田大学での教育と共同プロジェクト』

これまで本学で実施した講義についての紹介に振り返っていただいた後、研究指導を担当した学生の事例が紹介されました。ステンシル教授は[2022年度](#)と[2023年度](#)、本学で「Exercise Metabolism」の科目を担当し、またラフバラ大学に留学したスポーツ科学研究科の学生を指導してくださいました。



ウーリッヒ セバスチャン教授 ドイツ体育大学ケルン スポーツ経済学とスポーツマネジメント

『早稲田大学での教育と共同プロジェクト』

ウーリッヒ教授からもご自身の教育経験を共有していただきました。ウーリッヒ教授は[2018年度](#)、[2021年度](#)と[2023年度](#)にスポーツ科学学術院の訪問教員として、英語の授業を担当してくださいました。また、ドイツ体育大学ケルンとは、2018年に箇所間協定を締結して以来、双方向に活発な学生交流を行ってきました。ウーリッヒ教授は、こうした交換留学生の指導も担当してくださいました。



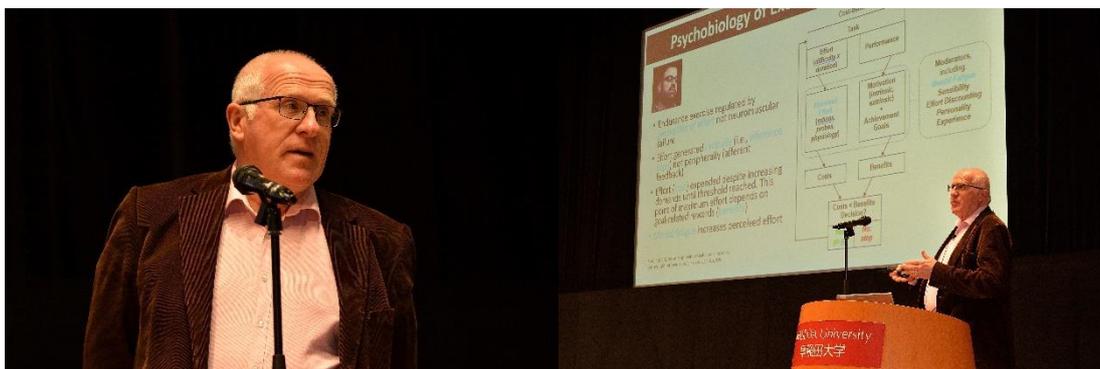
午後のプログラムでは、本拠点が今後の海外展開に視野を置いて、スポーツ科学の各分野でご活躍の4人のゲストスピーカーをお招きし、それぞれの分野において最新の教育研究に関する講演をいただきました。

リング クリストファー教授 バーミンガム大学 スポーツ心理学

『フィジカルトレーニングに認知トレーニングを加えるメリット - 脳持久力トレーニング(BET) - スポーツと運動のために』

本学はバーミンガム大学と大学間協定を締結しており、シェークスピア研究など様々な分野で長年交流を続けてきました。スポーツ科学学院は、バーミンガム大学とスポーツ分野での新たな協力関係を築くべく、今回お話いただいたリング教授が所属している School of Sport, Exercise and Rehabilitation Sciences と今後の学術交流や連携について、協議をしています。

リング教授にはご自身の研究分野やバーミンガム大学のスポーツ科学に関する取り組みについてお話いただきました。



コーンウェル ベットィナ教授 オレゴン大学 マーケティング

『スポンサーシップにおける研究 - 連動マーケティング』

コーンウェル教授はオレゴン大学ワルシャワスポーツビジネスセンターの長であり、マーケティングコミュニケーションや消費者行動について研究されています。最大規模の州立大学として知られるオレゴン大学は、トップレベルの学生アスリートや研究者を積極的に輩出し、またラフバラ大学とともに "GSUN" と呼ばれるグローバル・ネットワークを立ち上げています。コーンウェル教授は、この新しい取り組みの中心人物のお一人です。

コーンウェル教授は、ご自身の研究と今後のGSUNの構想について発表してくださいました。



カニンガム ジョージ教授 フロリダ大学 スポーツマネジメント

『スポーツにおける多様性、公平性、融合：世界における機会』

スポーツ科学学術院は、長年フロリダ大学のスポーツ経営学部と特にスポーツ・マネジメントの分野において、交流を続けてきました。これまで多くの共同研究が行われ、多くの日本人研究者が同学科で学んでいます。また、早稲田大学はフロリダ大学とすでに大学レベルの交流協定があり、すでに活発な学生交流が行われていますが、両学科は学部レベルでより箇所間協定の新規締結を検討しています。

カニンガム教授には、現在取り組んでいる研究や様々なプロジェクトについてお話しいただきました。

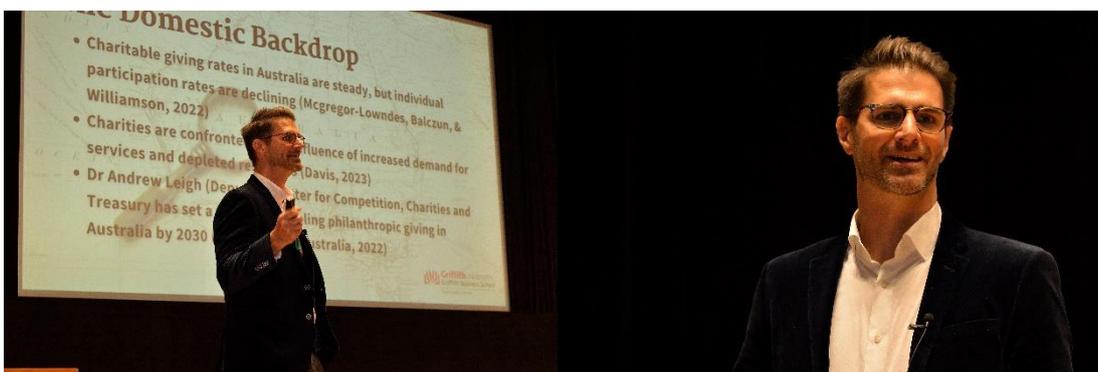


ファイロ ケビン准教授 グリフィス大学 スポーツスポンサーシップ

『価値観を研究の原動力に：グリフィス・マネジメント・リサーチにおけるインパクトのあるスポーツマネジメント研究のスナップショット』

グリフィス大学のグリフィス・ビジネス・スクールに所属しているファイロ准教授は2018年からSGUプロジェクトに協力して下さっており、訪問教員としても [2018年度](#)、[2020年度](#)そして [2022年度](#)に講義を担当して下さいました。本拠点は、ファイロ准教授が所属するビジネススクールと今後箇所間協定の締結を検討しています。

ファイロ准教授には、ご自身の最新の教育研究内容について紹介していただいた後、グリフィス・ビジネス・スクールの取り組みについてもお話しいただきました。



本拠点の林直亨教授よりシンポジウム閉会の挨拶がなされた後、6人のゲストスピーカーへの記念品の贈呈と、登壇者と参加者による記念撮影が行われ、和やかな雰囲気の中で閉会しました。



また、本シンポジウムでは、お昼休憩の間、及びシンポジウムの後に学生によるポスターセッションを実施しました。

合計 32 名の学生からポスターの出展があり、分野ごとに分かれて展示を行いました。ゲストスピーカーの教員及びスポーツ科学学術院の教員による選考の結果、上位 3 名の学生がポスター賞を受賞しました。

